四国ツーリズム創造機構通信 ～2026年９月号～

梼原町長と「持続可能な観光」の推進について意見交換を実施

【ブランディング】

9月2日（水）、高知県梼原町を訪問し、高橋基文町長、大川真一郎まちづくり産業振興課長と、「持続可能な観光」の推進について意見交換を行いました。

梼原町は、豊かな森林資源を活かしたまちづくりを進めており、木材を活用した特徴的な建築や再生可能エネルギーの活用をはじめ、環境に配慮したさまざまな取組を行うとともに、地域の歴史・文化など、持続可能な観光につながる多様な地域資源を有しています。

意見交換では、当機構が推進するJSTS-D（日本版持続可能な観光ガイドライン）やGSTC（グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会）に基づく取組、Green Destinationsの「Top 100」や認証制度について説明したほか、四国「持続可能な観光」推進ネットワークの活動内容や、会員を対象とした会議、ワークショップ、先進地視察などについて紹介しました。その他、JSTS-Dに取り組むための研修や体制づくり、国際認証取得に向けた進め方などについて話し合うとともに、梼原町の森林資源や環境に配慮したまちづくり、歴史・文化などを「持続可能な観光」の視点から発信していく可能性について意見を交わしました。

今回の意見交換を契機として、梼原町に四国「持続可能な観光」推進ネットワークへ参画いただくこととなり、ネットワーク会員は29団体となりました。このうち、高知県内からは8団体が参画しています。

当機構では今後も、ネットワーク会員相互の連携や情報共有を図りながら、四国各地域の特色を活かした「持続可能な観光」の推進に取り組んでまいります。

実　施　日	2026年９月２日（水）
実 施 場 所	梼原町役場（高知県梼原町）
梼　原　町 参　加　者	高橋基文町長、大川真一郎まちづくり産業振興課長
機構出席者	桑村本部長、松本チームマネジャー、夛田マネジャー



＜意見交換の様子＞

徳島県観光協会の賛助会員合同会議で記念講演を実施

【ブランディング】

９月16日（水）、徳島県徳島市で開催された徳島県観光協会「令和８年度賛助会員合同会議」において、清水CMOが「データやAIを活用してプロモーション施策を考える」をテーマに講演を行いました。

講演ではマーケティングを「誰に、何を、どう届けるか」と捉えたうえで、Googleマップの口コミをAI（Gemini）で整理し、ターゲット像、伝えたい１文、広告のたたき台をつくるという一連の流れを、三好市の観光スポットを例にご紹介しました。観光庁が2025年３月に取りまとめた手引書でも、口コミ分析を踏まえたマーケティング施策の立案が例示されています。AIが担うのはプロに相談する前の「たたき台」づくりまでで、媒体の選び方や予算配分、キャッチコピーの仕上げは、広告・制作のプロと一緒に決めるものです。当機構では、引き続き、データ・マネジメント・プラットフォーム（DMP）の提供などを通じて、会員の皆さまのデータ活用を後押ししてまいります。

開 催 日 時	2026年９月16日（水）14:40～15:30
実 施 場 所	アスティとくしま ３階 第２特別会議室 （徳島県徳島市）
主　　催	一般財団法人徳島県観光協会
聴　講　者	47名
機構出席者	清水CMO（講師）



＜講演の様子と講演資料＞

2026年度　四国ジオツーリズムセミナー（現地研修）を開催

【ブランディング】

9月16日（水）、徳島県三好市で、「2026年度 四国ジオツーリズムセミナー（現地研修）」を開催し、県内外から観光関係者等28名が参加しました。当日はあいにくの雨模様となりましたが、香川大学名誉教授・特命教授の長谷川修一氏、三好ジオパーク地質専門員の殿谷梓氏、現地ガイドの方々からの解説を受けながら、池田市街地や大歩危周辺を巡りました。

池田市街地では、断層や地形とまちの成り立ちとの関係について、実際の風景を見ながら学びました。昼食は「ミライケ」で地域の食に触れ、その後、大歩危周辺では吉野川沿いの特徴的な地形・地質を観察するとともに、地域に伝わる妖怪伝承を巡るツアーを実施しました。妖怪伝承が地域の地形や自然環境、人々の暮らしと深く結び付いていることなど、ジオパークならではの視点から地域の魅力に触れることができました。

参加者の皆さまは雨の中、最後まで現地を歩き、単に地形や地質を見るだけではなく地域の成り立ちや歴史・文化への理解を深め、その土地に根付く暮らしや文化、伝承を一つのストーリーとしてつなぎ、地域の魅力として伝えることの大切さを学ぶ機会となりました。

実　施　日　時	2026年９月16日（水）10:40~17:00
実　施　場　所	三好市街地・大歩危周辺（徳島県三好市）
講　　師	長谷川 修一 氏（香川大学 名誉教授・特命教授） 殿谷 梓 氏（三好ジオパーク 地質専門員） みよしジオガイドの会（現地ガイド3名）
機 構 出 席 者	半井代表理事、桑村本部長、神野副本部長、夛田マネジャー



＜池田断層見学の様子＞



＜大歩危周辺での様子＞

大坂メトロ御堂筋線で四国一体観光PRの吊革広告を実施

【ブランディング】

四国４県と当機構で実施している四国一体観光PR（四国の新ロゴ＆新キャッチコピー）について、９月から大阪メトロ御堂筋線の車両内で吊革広告を実施しています。１車両限定（※）の広告になりますが、出張などで大阪にお越しの際は、吊革にご注目いただければ幸いです。

※　８車両目（天王寺・なかもず方面から８両目）に掲出。



吊革の様子

ツーリズムEXPOジャパン2026に出展

【マーケティング】

９月24日（木）から27日（日）の４日間（※）、東京ビッグサイトで開催された「ツーリズムEXPOジャパン2026」に、四国４県、四国旅客鉄道(株)及び本州四国連絡高速道路(株)と共同で四国ブースを出展しました。

新たに作成した四国一体PRキャッチコピー「しあわせ、まるっと四国」及びロゴを前面に打ち出したデザインとした四国ブースでは、各団体により最新情報の提供やゆるキャラとの写真撮影、インフラVRツアー体験、スタンプラリーといった様々な催しを行い、多くのお客様に楽しんでいただきました。

当機構では、四国一体となったPRを行うとともに、持続可能な観光地域の紹介に関する展示を行い、四国に興味・関心のあるお客様とのコミュニケーションを図ることができました。

また、四国遍路日本遺産協議会にご協力いただき、「四国遍路」に関する情報を発信し、なかでもお遍路さんスタイルが味わえる白装束や菅笠の試着は多くの方に体験いただき、好評でした。なお、PR活動には、せとうち観光専門職短期大学の学生２名にもご協力いただきました。

４日間で18万人以上の方にご来場いただくイベントのなかで、多くの方に四国の魅力を発信することができました。 今後も、四国への誘客に繋がるよう取り組んでまいります。

実施日時	2026年９月24日（木）～28日（日）
実施場所	東京ビッグサイト（東京都江東区）
機構参加者	桑村本部長ほか５名
協　　力	四国遍路日本遺産協議会、 せとうち観光専門職短期大学 学生２名

※業界日（24日、25日）・・・事業者対象
　一般日（26日、27日）・・・一般の方対象

業界日には、10社の旅行会社等と商談を行い、旅行商品の造成や観光PRを実施するとともに、意見交換等を行いました。



＜四国ブースの様子＞



＜四国のゆるキャラが集合したステージイベント＞


＜PR活動の様子＞


＜四ツ創ブース＞


＜持続可能な観光に関するPR＞

「海外OTAサイト掲載のための商談会＆セミナー」を開催

【マーケティング】

９月３日（木）に徳島県徳島市、４日（金）に愛媛県松山市で、株式会社KKDAY JAPAN様、株式会社Trip.com様の海外OTA2社を招請し、四国内の観光に関わる事業者の皆様を対象とした「海外OTA掲載のための商談会＆セミナー」を開催いたしました。さらに、17日（木）にオンラインでの個別商談会を開催いたしました。

当日の商談会は、10分という限られた時間ではありましたが、対面でOTA担当者様との商談を行ったことで、昨年のオンライン商談会以上に、踏み込んだ商談ができたなどのお声をいただいております。

今後については、商談会参加者の中から、専門家による海外OTA掲載のための伴走支援の実施（海外OTA掲載までのアフターフォロー）を予定しております。

実施日時	徳島会場：2026年9月3日（木） 愛媛会場：2026年9月4日（金） オンライン商談会：2026年9月17日（木）
実施場所	徳島会場：とくぎんトモニプラザ大会議室（徳島県徳島市） 愛媛会場：愛媛県県民文化会館（愛媛県松山市）
招請会社	株式会社KKDAY JAPAN様、株式会社Trip.com様
参加者	徳島会場：セミナー参加者　29社（オンライン参加含む） 商談会参加事業者　17社 愛媛会場：セミナー参加事業者　32社（オンライン参加含む） 商談会参加事業者　17社 オンライン商談会：参加事業者　6社
機構参加者	徳島会場：桑村本部長、竹内チームマネジャー、寒原マネジャー 愛媛会場：伊藤統括副本部長、長谷部チームマネジャー



＜セミナー（徳島会場）の様子＞



＜商談会（愛媛会場）の様子＞

「第29回JNTOインバウンド旅行振興フォーラム」に参加

【マーケティング】

9月3日（木）及び4日（金）、東京都港区で、日本政府観光局（JNTO）が主催する「第29回JNTOインバウンド旅行振興フォーラム」に参加いたしました。

フォーラムでは、JNTO海外事務所長より各市場における最新動向や具体的な取組をご共有いただいたほか、「ガストロノミーツーリズム～地域資源の掘り起こしとストーリー化～」をテーマとしたパネルディスカッションも開催され、インバウンド誘客に向けた示唆に富む貴重な知見を得る機会となりました。

併せて実施された個別相談会では、ハノイ、クアラルンプール、ジャカルタ、フランクフルト、パリの各事務所長に対し、当機構が取り組む「食の多様性調査事業」の今後のアプローチに関するアドバイスや、今後注力すべき市場動向についての意見を伺うことができました。

また、講演会後の交流会においては、その他の事務所長とも積極的に名刺交換を行い、これまでに実施した四国への招請事業へのお礼や、今後の事業の方向性等について幅広く意見交換を行い、関係性をより一層深めることができました。

今回のフォーラムを通じて得られた最新の知見や海外事務所長との貴重なネットワークを最大限に活かし、今後の四国へのインバウンド誘客に向けた効果的な施策へと繋げてまいります。

※写真撮影不可のため、写真の掲載はございません。

開　催　日	2026年９月３日（木）及び４日（金）
実 施 場 所	品川プリンスホテル アネックスタワー５階 プリンスホール（東京都港区）
機 構 参 加 者	長山マネジャー、三好マネジャー

大阪IRを見据えた広域連携について大阪観光局と意見交換

【マーケティング】

９月８日（火）、大阪府大阪市で、公益社団法人大阪観光局と、2030年頃の大阪IR（統合型リゾート）開業や大阪・関西万博のレガシーを見据えた関西から四国への広域周遊・送客連携について意見交換を行いました。

関西・関空に到着する多くの来訪客を、神戸・淡路島経由や海路・空路で四国へ呼び込む広域周遊ルートを確立する方針が共有されました。また、IR内の観光・送客施設に、JTBや大阪観光局と連携して四国・瀬戸内の情報発信ブースやコンテンツ枠を確保・設置する構想が協議されました。

四国ブランドについては、「四国遍路」を共通の巡礼文化ブランドとして一元的に推進することが提案されました。また、自然・歴史・食・スローライフを強みに、歩き遍路、サイクリング、古民家再生宿などを欧米豪やラグジュアリー層、個人旅行者に訴求していく方針で一致しました。

このほか、交通政策や先端技術の活用でも「四国はひとつ」のもと広域連携DMOが取りまとめる必要性が確認されました。

当機構では、引き続き、「四国遍路」やスローツーリズムを軸に、受入環境や宿、体験コンテンツの情報を整理し、大阪観光局や四国経済連合会などの関係団体との連携を進めてまいります。

開　催　日	2026年９月８日（火）
実　施　場　所	公益社団法人大阪観光局（大阪府大阪市）
機　構　出　席　者	桑村本部長、清水CMO

神戸空港起点の広域周遊実証事業 第１回検討会に参加

【マーケティング】

９月８日（火）、大阪府大阪市で、近畿運輸局が主催する「神戸空港を起点とした広域周遊の環境整備実証事業」の第１回検討会に参加しました。

本事業は、神戸空港の国際化を捉え、兵庫県から四国（高松空港など）へ抜ける周遊モデルを構築するものです。単年度の数値達成ではなく、次年度以降の民間主体の継続事業・商品化につなげるためのデータ収集と課題抽出を目的としています。

事務局からは、事前調査で抽出した「認知の不足」、「消費の伸び悩み」、「移動・手配の負担」の３つの課題が示され、台湾の個人旅行者によるモニターツアー（３泊４日）と、旅行会社・OTAの担当者を招くFAMツアー（２泊３日）で検証する計画が説明されました。

出席者からは、交通パスや体験チケットなどのデジタルパーツと「巡りたくなるストーリー」をセットで提供し、一括で予約できる仕組みが重要との意見や、手荷物配送・二次交通の接続・夜間コンテンツなど受入環境の改善が必要との意見が出されました。

今後は、10月に第２回検討会、11月中旬～12月上旬にツアーの実施、2027年２月に第３回検討会と成果報告セミナーが予定されています。当機構では、四国の体験素材や受入情報を事務局に提供するなど、本事業に協力してまいります。

開　催　日	2026年９月８日（火）
開 催 場 所	大阪合同庁舎第４号館（大阪府大阪市）
主　　催	近畿運輸局（事務局：株式会社オンワーズ）
機 構 出 席 者	桑村本部長、清水CMO



＜検討会の様子＞

JAL麗らか四国キャンペーン 欧州旅行会社を招請した四国旅行を実施

【マーケティング】

当機構が日本航空（株）（以下、JAL）とタイアップした「JAL麗らか四国キャンペーン」の一環として、９月8日（火）から14日（月）の６泊７日の行程で、イギリスの旅行会社３社とJALロンドン支店のスタッフを招聘した四国視察旅行（FAMツアー）を実施しました。このインバウンド誘客に向けた取組みは、2024年度より開始し、今年で3回目の実施となります。

視察では、今後の四国を周遊する旅行商品造成に繋げていただくよう、四国の文化・自然・アクティビティ・食などを中心に体験いただきました。3名とも視察・様々な体験等を通じて、とりわけ地域の人々、職人の方々と直接触れ合うことに魅力を感じておりました。また各県ごとに意見交換会を開催し、参加者から前向きなコメントやアドバイスも多数いただきました。

引き続き、JALと連携し、アフターフォローを行い、欧州からの旅行者の誘客に努めてまいります。

次ページに続く

実　施　期　間	2026年９月８日（火）～14日（月）
機　構　同　行　者	松本チームマネジャー
視　察　先	徳島県：霊山寺、森陶器（大谷焼窯元）、阿波十郎兵衛屋敷、阿波おどり会館、本家松浦酒造、藍の舘（藍染体験）、大歩危峡観光遊覧船 香川県：日和製作所（和三盆体験）、栗林公園、丸亀城、うちわ作り体験、中野うどん学校（うどん作り）、琴平（金丸座・金刀比羅宮）、まんなか千年ものがたり（琴平⇒大歩危） 愛媛県：道後温泉（人力車、散策）、華ひめ楼（お座敷遊び体験）、しまなみサイクリング、亀老山展望公園、松山城 高知県：竹林寺（遍路体験）、お客文化体験、よさこい鑑賞、井上手漉き工房（紙漉き体験）、黒潮工房（かつおの藁焼き体験）、文本酒造、にこ淵、仁淀川アウトドアセンター（サップ・カヌー体験）


＜藍の館＞


＜中野うどん学校＞


＜竹林寺＞


＜道後温泉＞

第１回マーケット研究会（JNTOソウル事務所長 講演）を開催

【マーケティング】

９月９日（水）、香川県高松市で、四国運輸局と当機構の共催により「第1回マーケット研究会」を開催いたしました。

本研究会は、インバウンドの地方誘客推進を目的として、日本政府観光局（JNTO）の海外事務所長に現地市場における最新の訪日旅行動向等をご講演いただくものです。

第１回となる今回は、四国にとって台湾に次いで延べ宿泊者数が多い市場であり、直行便も就航している「韓国市場」をテーマに、田浦 靖典 JNTOソウル事務所長をお招きしました。

第１部では、田浦所長より、訪日韓国人の最新トレンドや四国への関心分析をはじめ、現地でのプロモーション展開、招請事業における取組のフィードバックなどについてご講演いただきました。

また第2部の個別相談会（事前申込制）では、四国内の自治体・DMO・民間事業者計３団体にご参加いただき、韓国市場からの誘客に向けた商談会やプロモーション、受入環境整備といった課題について、活発な意見交換が行われました。

当機構では、今後も四国の観光関係者の皆様へ有益なインバウンド情報を提供できるよう、JNTO等との連携を一層深めてまいります。

次ページに続く

開催日時	2026年９月９日（水）14:00～16:15
開催場所	高松商工会議所　501会議室（高松市）
開催形式	会場参加およびZoom配信によるハイブリッド開催
プログラム	第１部　講演：「韓国市場の今と四国の可能性」 講演者：JNTOソウル事務所長 田浦 靖典氏 第２部 個別相談
参加者	第１部：会場参加23名　オンライン参加76名 第２部：３団体
機構出席者	桑村本部長、伊藤統括副本部長、清水CMOほか３名



＜マーケット研究会の様子＞



＜マーケット研究会 講演資料＞

第２回四国広域連携観光戦略会議の開催

【マーケティング】

９月14日（月）、香川県高松市で、オンラインとのハイブリッド形式にて、「第２回四国広域連携観光戦略会議」を四国運輸局と共同開催いたしました。

本会議では、令和８年度広域連携観光促進事業の進捗状況（全12プロジェクト・計19の個別事業）について報告し、「広域連携観光戦略【正式版】骨子案」について当機構より説明を行いました。

戦略策定の背景や来訪者設計、重点地区の設定、月別来訪者数の平準化方針、ロードマップ等を共有し、構成員と意見交換を行いました。また、今後の正式版策定に向けたスケジュールについても共有いたしました。

今後、最終的な広域連携観光戦略【正式版】策定のため、関係自治体・DMO等への案件照会や意見聴取、合意形成に向けて、引き続き取り組んでまいります。

実施日時	2026年９月14日（月）14:00～15:30
開催場所	サンポートホール高松 54会議室 （香川県高松市）
参加者	四国経済連合会、JNTO、四国地方整備局、四国４県、四国運輸局、観光庁など約40名（機構参加者を除く）
機構出席者	桑村本部長、伊藤統括副本部長ほか４名



＜会場の様子＞

「アドベンチャー・トラベル・ワールド・サミット2026」に出展

【マーケティング】

９月14日（月）から17日（木）の４日間、カナダ・ケベックシティで、「Adventure Travel Association（ATTA）」が主催する、アドベンチャートラベルの世界最大のイベント「アドベンチャー・トラベル・ワールド・サミット（ATWS）」に参加しました。

当機構は、JNTOが設けるジャパンラウンジ内の四国ブースで、四国遍路の白装束を身に着け、四国のアドベンチャートラベルのモデルコースを紹介しました。また、併せて実施されたマーケットプレイス（商談会）では、今後に商品造成につながる商談を実施したほか、メディアコネクト（メディアとの商談会）では、海外メディアに対し、四国への取材を働きかけました。

引き続き、バイヤーやメディアへのフォローアップを行い、アドベンチャートラベルをフックとした、四国へのインバウンド誘客を推進してまいります。

実施日	2026年９月14日（月）～17日（木）
開催場所	Québec City Convention Centre（カナダ・ケベックシティ）
商談先	11カ国・地域30社 商談先の国・地域は、アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ドイツ、オランダ、コロンビア、チリ、ネパール、タンザニア、シンガポール
機構出席者	なし　※委託事業者が出席



＜四国ブースの様子＞


＜四国ブースでの商談の様子＞


＜マーケットプレイスでの商談の様子＞

VJTM JAPAN トラベル & MICEマート2026（VJTM2026）に出展

【マーケティング】

９月24日（木）から26日（土）の３日間、「ツーリズムEXPOジャパン2026」と同時に開催された、日本政府観光局（JNTO）主催の日本最大のインバウンド商談会「VISIT JAPAN トラベル＆MICEマート2026（以下、VJTM2026）」に出展し、当機構は16カ国・地域29社の海外旅行会社と商談を行いました。

各国からの訪日経験者に向け、新たな旅先の候補として四国のアドベンチャートラベルのコンテンツである「四国遍路」「サイクリング」「文化体験」などを紹介してきました。

今回の商談を踏まえ、アフターフォロー等により、海外からの四国への誘客促進につなげてまいります。

実施日	2026年９月24日（木）～26日（土）
開催場所	東京ビッグサイト（東京都江東区）
現地者数	海外バイヤー265社、国内セラー　308社・団体
当機構商談先	16カ国・地域29社。商談先の国・地域は以下のとおり アメリカ、カナダ、オーストラリア、イギリス、ドイツ、イタリア、オランダ、ベルギー、スイス、デンマーク、タイ、シンガポール、ベトナム、韓国、台湾、中国

次ページに続く



＜四ツ創ブース＞



＜商談会の様子①＞



＜商談会の様子②＞

米国旅行雑誌「トラベル＋レジャー」に四国特集の掲載について

2025年５月号で報告した、JNTOニューヨーク事務所の紹介にｐり、米国旅行雑誌「トラベル＋レジャー」の記者Lauraさんが四国を取材した際の内容が同士10月号に９ページにわたり掲載されました。

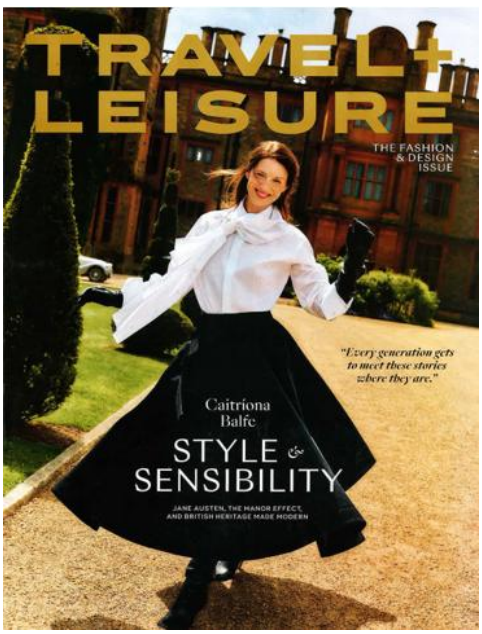
Lauraさんが高校生の時に出会った日本の小説が、30年越しの四国訪問のきっかけになり、オーセンティックな四国の魅力や旅の様子が、小説家好きならではの視点とストーリーで描かれております。

宿泊施設の穴吹邸や祖谷温泉、藍染体験をご提供頂いたUntold Storyなどをはじめ各施設も記事内で紹介をいただいております。

四国での旅は、「ご縁に満ちた旅だった」と仰っており、そうした出会いも記事で触れられております。

トラベル＋レジャー10月号には、９ページにわたる記事が掲載されました。

Travel＋Leisure
WEB版サイト：https://www.travelandleisure.com/shikoku-12076997
月間サイト訪問者数：13,897,660人
発行部数： 962,387部



＜Travel＋Leisure誌面表紙＞


TRAVEL+ LEISURE

Japan's Smallest Major Island Has Lush Mountains, Dazzling Shrines, and Hidden Gorges—How to Visit

Shikoku even has a village populated by scarecrows.

By Laura Moser
Published on September 8, 2026

A view of Japan's Seto Inland Sea from Mount Yashima, in the city of Takamatsu.
Credit:Irwin Wong/Travel + Leisure

＜Travel＋Leisure　Web版＞

観光振興セミナー2026 中国・四国Meetingに参加 【その他】

９月１日（火）、広島県広島市で開催された、じゃらんリサーチセンター主催の「観光振興セミナー2026 中国・四国Meeting」に参加しました。

本セミナーでは、「地域でつくる、地域のミライ」をテーマに、これからの観光のあり方や、地域に必要な観光戦略について、じゃらんリサーチセンターの最新調査・研究データをもとに、日本人の最新国内旅行トレンドや、訪日旅行者の期待・周遊傾向について、国内・インバウンド双方の視点から講演が行われました。

また、パネルディスカッションでは、「今地域に必要な観光戦略とは？」をテーマに、これからの観光産業や地域戦略について議論が交わされました。

当機構としても引き続き、最新の知見を入手しながら、広域観光の推進に取り組んでまいります。

実施日時	2026年９月１日（火） 13:30～16:30
開催場所	リーガロイヤル広島　４階　ロイヤルホール （広島県広島市）
機構出席者	伊藤統括副本部長



＜セミナーの様子＞

一般社団法人イーストとくしま観光推進機構 令和８年度 第１回観光地域づくりに向けた意見交換会に出席 【その他】

９月１日（火）、徳島県徳島市で開催された、「一般社団法人イーストとくしま観光推進機構令和８年度 第１回観光地域づくりに向けた意見交換会」に出席しました。

会前半では、当機構の桑村本部長が「四国ツーリズム創造機構のインバウンドを中心とした誘客事業について」というテーマで講演を行い、その後、徳島東部のインバウンド誘客の現状と課題及び二次交通対策についての意見交換を行いました。

開催日	2026年９月１日（火）
開催場所	アスティとくしま　１Ｆ　第４会議室 （徳島県徳島市）
機構出席者	桑村本部長、岸本マネジャー



＜講演の様子＞

地域創生アライアンス（LCA）の活動報告会に参加

【その他】

９月15日（火）、香川県高松市で開催された、一般社団法人地域創生アライアンス（以下、LCA）が主催する「活動報告会 2026」に参加しました。

当日は34社55名が参加し、リユース・リサイクルの活用、AI活動、人財確保、道路損傷の検出・補修、BCP計画書策定の支援、モビリティシェア、四国（善通寺）のMaaSの７テーマについて、８社から発表がありました。次回は12月３日（木）午後に開催予定です。

当機構では、引き続き、四国内の関係団体との情報交換に努めてまいります。

開催日時	2026年９月15日（火）13:30～16:30
実施場所	KANEMITSU CAPITAL HOTEL（香川県高松市）
出席者	34社55名（主催者発表）
機構出席者	桑村本部長、清水CMO



＜活動報告会の様子＞

高松⇔高雄線　定期チャーター便　就航記念　セレモニーに参加

【その他】

９月17日（木）、高松空港で開催された、記念セレモニーに参加しました。

高松空港と台北に就航しているチャイナエアラインが、同日より、台湾南部の高雄との運行を開始したことをうけ、記念セレモニーが行われました。高松⇔高雄線は、月曜日及び木曜日、土曜日の週３便のインバウンド専用便での運航となります。

開催日	2026年９月17日（木）
実施場所	高松空港旅客ターミナル２階 国際線出発ロビー（香川県高松市）
機構出席者	桑村本部長



＜李 チャイナエアライン日本支社長＞



＜池田 香川県知事＞



＜平瀬 高松空港(株)社長＞

オーバーツーリズム対策①　国の動きと3地域の現場

【清水CMOからの情報】

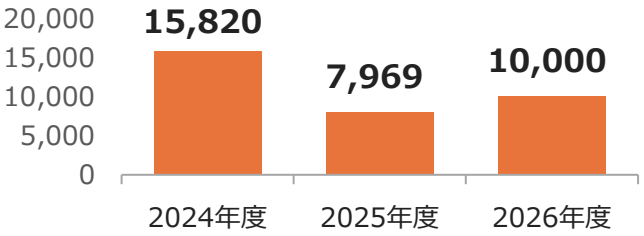
先日のシルバーウィークを利用して、城崎温泉（兵庫県）・伊根（京都府）・高野山（和歌山県）に行ってきました。この3地域は、国内外から人気を集める一方で、オーバーツーリズムが話題になる地域です。そこで今月はオーバーツーリズムを調べてみることにしました。国の動き、世界の事例、四国の現場の順にご紹介します。

※訪問時の印象は、あくまで私自身の実体験をもとにしたものです。

【国のオーバーツーリズム関連予算（観光庁）】

参考：観光庁予算

（単位：百万円）



事業名は年度で異なります。

出所：観光庁『令和8年度 観光庁関係予算概要』p.4「事業イメージ」



・オーバーツーリズム関連には、近年、多額の予算が充てられています。
・2027年度は、旅客税を財源に1,800億円（前年比1.38倍）を概算要求しており、オーバーツーリズム対策にも充てられる見込みです。

高野山（和歌山県）



訪問時　中心部駐車場はほぼ満車。警備員が車を誘導

課題　観光客145万人に住民2,600人。紅葉期は渋滞

対策　中心部の駐車場を24日間、試験的に有料化。満空情報も公開

結果　約2.5万台が利用し、警備員は22名減。有料を避けた路上駐車が課題

参考情報

観光庁『オーバーツーリズム事例集』高野町

伊根（京都府）



訪問時　駐車場は常に満車。韓国の大型バスツアーが目立つ

課題　観光客は定住人口の36倍。住民が路線バスに乗れない

対策　伊根航路（海路）と観光特急バスを運行

結果　路線バスの続行便（臨時の増便）が 100便以上→0便

参考情報

近畿運輸局 掲載資料

城崎温泉（兵庫県）





課題（訪問時）
7つの外湯のうち
営業中の4湯すべてが
混雑具合100%超

対策　外湯ごとの混雑をスマホで公開。定休日もずらす

結果　混雑の算出方法や効果は不明

参考情報

城崎温泉観光協会「外湯混雑状況」

（写真は当日の画面）

3か所とも、混雑を数字で調べ、対策を試し、その結果を見て直しています。

次ページに続く

オーバーツーリズム対策②　世界の事例と四国の対応

【清水CMOからの情報】

【オーバーツーリズムとは】

オーバーツーリズムは数値などで明確に定義されていませんでした。
しかし、UNWTO（国連世界観光機関：現UN Tourism）の2018年報告書は、「『オーバーツーリズム』にはいくつかの定義が登場した」と紹介しています。その一つは、観光の影響が「市民の生活の質又は訪問客の体験の質に悪い形で過度に及ぶ状態」です。
ここでは世界の事例を起き方の違いで5つの型に分け、四国で似た場面を並べてみました。

写真	世界の事例
	**①小さな町に日帰り客　ハルシュタット（オーストリア）** **起きたこと**　年100万人超の日帰り客（人口約780人） **対策【予約枠】**　2020年から観光バスを事前予約制に。枠が埋まれば入れない **わかったこと**　バスは1日約90台→30～35台。2023年も住民が抗議 **四国の似た場面**　直島（香川県）、小豆島（香川県） 記事：Salzburg24
	**②SNSで人が集中　フェロー諸島（デンマーク自治領）** **起きたこと**　SNSをきっかけに、特定の景勝地へ人が集中（人口約5.4万人） **対策**　人気地点を一時閉鎖し、遊歩道を補修。2026年2月から宿泊料を維持費に充当 **わかったこと**　2024年は80人の枠に5,945人が応募。混雑への効果は未測定 **四国の似た場面**　下灘駅（愛媛県）、にこ淵（高知県） 記事：Afar
	**③駐車場・道路・トイレへ人が集中　スカイ島（スコットランド）** **起きたこと**　観光客の増加で、道路・駐車場・トイレが不足。Fairy Poolsなど特定の人気地点に集中 **対策【受け皿の整備】**　Fairy Poolsに駐車場（2019年）、路肩の駐車スペースを拡張。Storrには来訪者センターを開設（2024年） **わかったこと**　Storrの来訪者は2024年に29.3万人。混雑の変化は不明 **四国の似た場面**　屋島（香川県） 記事：Project Scotland
	**④人数・動線の管理　チンクエ・テッレ（イタリア）** **起きたこと**　連休に来訪者が増える時期、国立公園が遊歩道の人の流れを管理（2024年） **対策【一方通行】**　青い遊歩道は指定日9～14時のみ一方通行（2024年） 利用カード1日7.5ユーロ（混雑日15ユーロ）。愛の小道は1時間400人まで（2025年） **わかったこと**　混雑が減ったかを示す公表データは確認できず **四国の似た場面**　道後温泉（愛媛県） 記事：Time Out（2024）
	**⑤季節に集中　ブライエス湖（イタリア・ドロミテ）** **起きたこと**　夏のシーズンに、湖へ向かう道路の交通量が問題に（地元紙、2024年） **対策【期間限定の予約制】**　2025年は7/10～9/10の9:30～16:00、マイカーを事前予約制に。予約なしは徒歩・自転車・バスで。住民は許可を取れば通行可 **わかったこと**　地元紙は「良好な結果」と報道。数値は未公表 **四国の似た場面**　阿波おどり（徳島県） 記事：il Dolomiti 2025／同 2024

・海外の対策は、「入れる人数」「料金」「時期」を入口で決めるものが中心です。
・ただし、混雑が減ったかどうかを数字で示せた例は多くありません。

次ページに続く

オーバーツーリズム対策③　四国の現場と対策

【清水CMOからの情報】

【四国4県にも、現場と対策があります】

国の『オーバーツーリズム事例集』（令和7年度実施事業）に既に掲載している小豆島・いの町・大洲市に加え、直島・下灘駅・屋島・道後温泉・阿波おどりを追加しました。国の補助事業への採択状況も、「補助金」欄に記載しています。

写真	四国の事例
 芸術祭の開幕日、直島を訪れた観光客（KSB 2025-04-18）	**直島（香川県）** **起きたこと**　観光客数は令和元年の約75万人がピーク（令和5年は68万人）。瀬戸内国際芸術祭の開幕週末は、濃霧で船が遅れて乗船待ちの列が100m以上になり、宮浦港では町営バスの積み残しが続いた **対策**　町は臨時バスを運行。町商工会は2026年4月、宮浦に大型ロッカーを開設（キャッシュレス、大扉1日800円）。町の総合計画にも「オーバーツーリズム対策・インバウンド対策の強化」を掲げている **わかったこと**　対策の効果を示す数値は確認できず **補助金**　直島町商工会のインバウンド大型手荷物対策事業が、国の補助事業に採択（令和5年度） 出典：直島町『第5次直島町総合計画 前期基本計画』、直島町商工会「貸ロッカーサービス開始」
 繁忙期のバス待ちの行列（事例集）	**小豆島（香川県）** **起きたこと**　繁忙期はバスに行列。運転手不足でバス便は2年で2割以上減少 **対策**　土庄港でEVモビリティを貸出。観光客の流れを調べ、港の使い分けを促進 **わかったこと**　**EVの利用は153回（目標200回）。2割強が行きと帰りで別の港。**小豆島PASSの利用は191回（目標1,000回） **補助金**　小豆島観光協会の環境整備事業が、国の補助事業に採択（令和8年度） 出典：観光庁『オーバーツーリズム事例集』
 周辺の生活道路の渋滞（読売新聞 2026-03-22）	**下灘駅（愛媛県）** **起きたこと**　SNSで有名に。生活道路の渋滞、私有地への無断立入り、ごみ。来訪者は年15万～20万人超（推計） **対策**　3連休・GWは臨時駐車場を閉鎖し、徒歩約15分の駐車場へ誘導。シャトルバスを実証運行（2024年） **わかったこと**　**シャトル実証は100人が利用。**緩和の効果は未公表。市の対応では「解決に至らず」 補助金　伊予市観光物産協会（ソレイヨ）の海岸エリアの混雑緩和・分散事業が、国の補助事業に採択（令和5年度） 出典：伊予市観光物産協会ソレイヨ お知らせ（2026-04-28）
 GWの国道194号の渋滞（事例集）	**いの町「にこ淵」（高知県）** **起きたこと**　SNSで急に知られ、来訪者は10万人→20万人（令和5→6年）。令和7年GWは国道で約1.5kmの渋滞 **対策**　遊歩道の新設、駐車場の拡幅、混雑予測サイト、AIカメラ **わかったこと**　**遊歩道への不満は36.4%→0%。**確認は冬の閑散期。混雑期の効果はこれから **補助金**　いの町の「にこ淵の時間分散による渋滞緩和と駐車場整備事業」が、国の補助事業に採択（令和6年度） 出典：観光庁『オーバーツーリズム事例集』

次ページに続く

オーバーツーリズム対策③　四国の現場と対策

【清水CMOからの情報】



生活道路に滞留する観光客（事例集）

大洲市（愛媛県）

起きたこと　城下町で民家への立入り（年10件ほどのクレーム）、庭園の苔の傷み

対策　デジタルマップ、多言語サイン28か所、AIカメラで人の流れを測定

わかったこと　**民家への立入り報告は0件**。臥龍山荘で同時滞在80人超が43回（目標は80人以下）。事例集も「効果は限定的」と記載

補助金　大洲市肱南地区のデジタルマップ・サイン整備事業（キタ・マネジメント）が、国の補助事業に採択（令和6年度）

出典：観光庁『オーバーツーリズム事例集』



社会実験中の山上駐車場。料金1,500円の看板（KSB 2026-09-22）

屋島（香川県）

起きたこと　2026年のGWに山上駐車場が満車になり、約2kmの渋滞が発生した日があった。山上の駐車場は約400台分

対策　高松市が駐車料金を需要に応じて最大8,000円まで変えられるよう条例を改正し、社会実験を実施。シルバーウィーク（9/19～23）は普通車1日300円を22日1,500円、23日1,000円に。山麓の屋島レクザムフィールド（約100台）に無料駐車場を設け、山上まで30分間隔で無料バスを運行

わかったこと　**実験開始から21日まで駐車場の混雑は発生せず、無料バスで1日1,000人程度が山上へ**。市は来年度まで複数回の社会実験で適正な価格を探る方針

補助金　高松市の屋島地区の渋滞対策社会実験が、国の補助事業に採択（令和8年度）

出典：屋島寺のお知らせ（2026-09-09）



整理券・待ち時間の案内（道後温泉公式サイト）

道後温泉（愛媛県）

起きたこと　道後温泉本館など外湯3館で待ち時間が発生し、整理券を配布している

対策　松山市が2020年9月、公式サイトで外湯3館（本館・飛鳥乃湯泉・椿の湯）の営業時間・待ち時間・整理券の配市は「待ち時間を有効に過ごしてもらい、満足度や街の回遊性を高めたい」と説明。混雑緩和の効果を示す数値は確認できず

布状況をリアルタイムで表示するサービスを開始（10月1日から本稼働）

わかったこと　**補助金**　松山市（四国観光立県推進愛媛協議会）の道後温泉エリアの混雑緩和事業（データ活用）が、国の補助事業に採択（令和8年度）

出典：日本経済新聞（2020-09-18）



藍場浜演舞場の様子（実行委員会資料 2026-07-27）

阿波おどり（徳島県）

起きたこと　毎年8月11～15日、徳島市中心部の会場エリア周辺に国内外から100万人を超える人が訪れる。主催者推計は2024年102万人、2025年111万人、2026年114万人

対策　①会場エリア付近の臨時駐車場の新設、②オーバーツーリズム環境における危機管理、③シャトルバス乗降場及び臨時駐車場の新設

わかったこと　**事業の成果（来場者の分散・混雑の変化）を示す数値は確認できず**

補助金　「AWAODORI NEWモデル事業」が、国の補助事業に採択（令和8年度）

出典：阿波おどり未来へつなぐ実行委員会 第4回資料（2026-09-04）

・四国の8事例は、いずれも国の補助事業に採択されています。
・補助金で実証を始め、効果を確かめている途中の事例が多くあります。
・一方で、伊根（バスの運賃収入）や小豆島（駐車場の有料化）のように、収入を生む工夫も始まっています。補助金のあとも自走できる事業にすることが大切だと考えます。

今回は、オーバーツーリズムの現状と対策をご紹介しました。
当機構は、今後も四国内外を問わず、会員の皆様に有益な情報をお届けしてまいります。

四国ツーリズム創造機構通信 ～2026年９月号～

代表理事の主な動静

９月15日（火）定例会議・推進会議（当機構の会議）

16日（水）ジオツーリズムセミナー

24日（木）ツーリズムEXPOジャパン2026（東京都）

（一社）四国ツーリズム創造機構
事業推進本部
岸本、神野

TEL：087-813-0434
FAX：087-813-0312

SHIKOKUTOURISM

後援・協賛等

事業名	主催	期間	備考（公式サイト等）
第18作「新 鶴姫伝説～鎧に白い花を～」	坊っちゃん劇場	2025年４月29日(火)～2027年３月(予定)	https://www.botchan.co.jp/production.html
四国コンテンツ映像フェスタ2026	四国総合通信局、四国情報通信懇談会	2026年４月24日(金)～12月(予定)	https://www.shikoku-ictcon.jp/scvf/
周遊スタンプラリー「四国巡りんく」	本州四国連絡高速道路株式会社	2026年５月25日(月)～2027年１月31日(日)	参考(2025年度公式サイト)：https://www.love-setouchi.jp/megulink2025/
第７回 SB Student Ambassador 四国ブロック大会	SB Student Ambassador 四国ブロック大会 事務局	2026年６月12日(金)～11月７日(土)	https://www.sbsa27.com/

10月以降の主な予定表

区分	10月	11月	12月	１月	２月	３月
マーケティング（国内）	JAL麗らか四国キャンペーン（４月～10月） ANA誘遊四国キャンペーン（９月～３月） 四国観光商談会（10月６日/大阪）（10月14日/東京）	秋のしあわせ、まるっと四国巡りフェア（11月21日～23日/京都）				
マーケティング（国際）	第18回FITフェア（10月16日～18日/タイ）	四国インバウンド商談会（11月10日/高松市）	サイクリングツアーガイド講習（12月16日～18日/高松）	ITBベルリン（３月16日～18日/ドイツ）	Japan Roadshow（２月１日/シドニー）	
ブランディング	四国「持続可能な観光」ネットワーク会議（10月29日/内子町）	四国「持続可能な観光」先進地視察（11月25日～26日/高山市） 第２回意見交換会（11月9日/徳島市）	Greater WEST JAPAN推進会議（11月27日/米子市）	第３回意見交換会（１月18日/松山市）	TAIPEI CYCLE2026（３月25日～28日/台湾）	